

わたしの遊び心 原風景 vol.8

～私たちはみんな、子どもだった～



仕事のできる大人、魅力あふれる大人。そんな大人たちの「今」の種となっているのは、不思議と、小さい頃に熱中した遊びやその遊びを取り巻く風景だったりするものです。きびきびと働く顔は少し横に置いて。語ってもらいました、子どもだった頃、問答無用で好きだったおもちゃや夢中になった遊びのこと。

写真/水野 宏章

「焼けたはんだ^ご、ペーストの匂い、コイルや真空管に囲まれた少年時代」を過ごした。きっかけは小学四年生の時に初めて作った鉱石ラジオ。「それで、病気にかかった」と笑う。以来、「自分で作って受信すること」に夢中になった少年は、次々にいろいろな真空管ラジオを組み立てた。並三、高四、五球スピーカー……そして真

OKUBO KENSAKU

大久保 憲作さん(59歳)

1947年倉敷市生まれ。早稲田大学理工学部卒。工務店勤務を経て、1974年倉敷木材(株)に入社。現在、同社社長と、1996年開局の(株)エフエムくらしきの社長を兼務。倉敷商工会議所ほか各種団体での役割も多く、倉敷のまちづくりに多忙な日々。信条は「自然体」。

空管を十何球も使う短波ラジオの自作に挑戦した。最初の手引きとなり、何度も熟読した本が、NHK技術研究所職員・杉本哲の『初歩のラジオハンドブック』。

いた。ちなみに、大久保さんは少年時代の二局(自分の局と中学の局)と、大人になってから開いた各会社(クラモクとエフエム)の局の、合計四つのアマチュア局を開局している。少年時代の「遊び」は、ある時、さらなる実を結ぶ。一九九六年十二月二四日に県下初の民間エフエム放送局「エフエムくらしき」を開局したのだ。その開局パーティには、かつて中学時代に電気のイロハを指導してくれた理科の先生もお礼に招いた。また、これまでの知識に、ここ一〇年間関わってきたコミュニティ・メディアの地域活動が合流して生まれたひとつのアイデアが、緊急告知FMラジオ「こくつち」として結実。今年一月に、防災まちづくり大賞の消防庁長官賞を受賞した。

分のコールサインJ A 4 B A Xの免許を取得。翌年の八月二五日には、中国電波監理局(当時)の郵政技官ら、広島市から来た「おじさん」たちに囲まれての落成検査をパスし、中四国・九州で初の、中学校アマチュア無線クラブ局(岡山大学附属中)を開局した。中古のタクシー無線機器の改造など、自作熱もいよいよ高じて、大学進学まで続

かつてのラジオ少年は、最近の蒐集に熱中しているという。スイッチを入れればすぐに鳴り出す、それら数々の機器に囲まれる束の間、大久保さんは少年時代と時を越えてつながる周波数に、チューニングしているのかもしれない。